

2025 年 4 月 24 日

2024 年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 立川おはやし保存会

代表者・役職名 氏名 会長 岡部一彦

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクトの名称

立川おはやし保存会の伝統芸能であるお囃子の存続育成

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

立川市内に祭りお囃子団体各所に有りましたが、団体同士の連携交流が無く、昭和六二年に立川おはやし保存会を設立し当所八団体でしたが現在では14団体加入 会員数は約600人

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

コロナ禍後、戻ってきた子供達の祭囃子の技術向上、面白さと・優しさ・礼儀・面倒見の良い人、地元の子供として、ほこりのもてる人に育てることを目標に各団体の代表と協議して、上層部として指導者を派遣したい。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

立川おはやし保存会ではコロナ禍後、各団体が練習を再開しているが、指導者が不足している。演技力・技術力・指導力ある人材を2名～3名選抜し、指導者の不足している団体に派遣、全体の演技力・技術力の向上に役立て会員数の増加を図る。
又各はやし連には各流派[船橋流・神田流・重松流・目黒流]あり各流派による合同練習・勉強会などを行い保存会の組織強化を図る。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

指導方法について、世代が変わり先代から受け継いできた「見て覚えろ」という指導方法では通用しなくなっていることに気づかず練習を行っている団体がまだある。太鼓ではバチの持ち方、太鼓の打ち方、打ち方の強弱等、踊りでは、手の上げ方、指先の動かし方、顔の向き、運び(歩き方)等、を重点に細かい指導を行うようになってきた。結果レベルのアップが図られ子供の脱会もなくなってきた。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

伝統芸能であるがゆえに「見て覚える」ということが根強く、なかなか前進しない部分もあるが、世代が変わり若い人たちには教え方のこだわりはない。そのためどうしたらわかりやすく多くの人に教えられるか考えてもらえるようになってきた。今後も継続し、入門者へわかりやすい指導ができる方法を伝授していきたい

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、「必ず」、別途、ご提供ください。





- 12:00 開会式
- 12:15 高松町お囃子保存会(高松町)
- 12:30 五月はやし連(富士見町)
- 12:45 中里神明囃子連(西砂町)
- 13:00 紫一はやし保存会(紫崎町)
- 13:15 錦みよし会はやし連(錦町)
- 13:30 殿ヶ谷十二支はやし連(西砂町)
- 13:45 立川錦囃子連(錦町)
- 14:00 曙東はやし連(曙町)
- 14:15 コラボレーション
- 14:30 閉会式

